

12市長 大沼氏に推薦状

支援組織 土田氏が会長就任

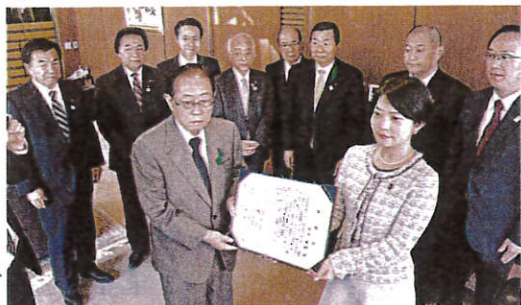
2019 参院選

県内の市長有志は16日、夏の参院選眞選挙区に立候補を予定している自民現職大沼瑞穂氏(40)の支援組織を設立し、山形市内で大沼氏に推薦状を手渡した。全13市のうち尾花沢を除く12市長が名を連ねた。

支援組織の会長には県市長会長の土田正剛東根市長

が就いた。土田市長は山形市内で記者会見を開き、「各市長が旗幟を鮮明にして参院選に臨む」とし、「(大沼氏は)厚生労働政務官を務め、子育て支援などに積極的に取り組んだ。重要物流道路指定でのサポートも高く評価している」と述べた。

大沼氏は12市長の署名が添えられた推薦状を受け取り、「大変重く受け止めている。人口減少対策や地域



医療の充実など各地域が抱える課題解決のため全力で取り組む」と話した。尾花沢市の菅根光雄市長は昨年7月の市長選で、非

自民系の各県組織から推薦を受けて当選した経緯がある。山形新聞の取材に16日、「熟慮しているが、6月半ばまでには(自身のスタンスについて)結論を出したい」とした。

眞選挙区には非自民系の各党などが擁立した無所属新人の芳賀道也氏(61)と、共産新人の浜田藤兵衛氏(65)が立候補を表明している。(佐藤裕樹)

市長有志を代表して土田正剛東根市長(手前左)から推薦状を受け取る大沼瑞穂氏(同右) 山形市・県自治会館